

研究タイトル：

## ネットワークを利用した英語教育の研究



氏名： 南 優次 / MINAMI Yuji E-mail: minami@ube-k.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士(文学)

所属学会・協会： 全国高等専門学校英語教育学会

キーワード： ネットワーク, 国際交流, 英語教育, イギリスロマン派文学, ジョン・キーツ

技術相談

提供可能技術：

・地域の自然に対する体系的思想構造の単純な比較

### 研究内容： 東北アジア地域の環境保全技術者育成用英文教材開発

デジタルネットワークを利用した英語教育に関して、現在利用可能なシステムは、2件ある。

1件は、学内限定利用の e-learning システムである。これは、アルク社の「ネットアカデミー2」という英語自学自習用ソフトを管理運営することによって、実現している。

2件目は、自宅からでも学習可能な e-learning システムが利用可能となっている。タイトルは、「COCET3300」で、URL は、「cocet.code.u-air.ac.jp」である。携帯でも利用可能である。これは、NTTILS,旧メディア教育開発センター、及び岐阜高専の亀山教授を中心とした高専英語教員有志による共同開発ソフトである。

海外協定校とのネットワークを利用した英語教育は、英語によるプレゼンテーションを学生が海外インターンシップとして実施することによって、可能となっている。これは、専門教育と英語教育の共同作業となる。これはまた、教育基本法第一条(目的)の平和で民主的な国家の形成に資する人材教育を可能としている。

戦後の全教育者に与えられたビジョンは、教育基本法第一条(目的)の中の、「民主主義国家形成のための人材教育」である。そして、日本国憲法が掲げる「人権第一主義」に守られて、戦中は敵国語であった英語を自由に勉強できるようになった。日本の戦後の高度経済成長、及び工業化を 50 年間支え続けてきた工業高等専門学校制度下においても、英語教育は施されてきた。しかし、京都議定書調印以後、環境問題は、工業高等専門学校が今後 50 年間取り組むべき課題となった。本研究は、民主主義国家形成に寄与した英語教育を土台として、次の世代の課題解決のための英文教材が必要となる。

また、英語教育分野で、コミュニケーションツールとしての英語の標準化作業が進展している。インターネットの普及に伴って、少なくともパワーポイントを使ったプレゼンテーションに関する作業は、UNCT、DIT、HITWH、KnASTU とともに違和感は無かった。既に通信分野に関するコミュニケーションは成立している。今後は、例えば WHO 作成の「国際疾病分類表」や、RoHS 指令の「特定有害物質制限表」等の、持続可能な社会の実現に向けた語彙の標準化が、英語によって進むと考えられる。持続可能な社会の実現を語る事の出来るアジア人を育成することを特色として、学際的な研究を進めている。

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	